
暗黒の組織 V S コナン & 哀

☆リリー☆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗黒の組織VSコナン&哀

【Nコード】

N9531A

【作者名】

☆リリー☆

【あらすじ】

阿笠博士の家に届いた哀宛ての一通の手紙：この手紙こそがすべての始まり。警視庁、怪盗キッド、FBIまでも巻き込んで組織と対決！？

第一話：哀への手紙（前書き）

作者は哀ちゃん大好きです。

組織物や哀ちゃんに嫌悪がある方は迷わずにお引取りください。

作者はパソコンでこの小説を書いています。携帯で読まれる方は改行等がおかしくなっている可能性があります。ご注意ください。

第一話：哀への手紙

阿笠博士宅に一通の手紙が届いた。差出人の名前は、書いてない…

鳩のような真っ白な封筒に鳥のような真っ黒な文字で書かれている…

受取人は、灰原哀。その手紙の内容は…

□親愛なる灰原哀様こと宮野志保Ⅱシェリー様□

貴女がA P T X 4 8 6 9で体が幼児化していることは

我々暗黒の組織が把握済みよ。そう、あの日本警察の救世主・平成

のシャーロックⅡホームズと呼ばれた工藤新一も幼児化し江戸

川コナンと名乗って毛利探偵事務所に居候していて、貴女一緒

に帝丹小学校に通っている事もね…

貴女は、組織では有数の頭脳の持ち主…工藤新一も連れて、組

織に戻ってらっしゃい。その姿のままで良いから…我が組織を

裏切った者はいくら組織の幹部でも処刑って規則…でも、私は

ボスの次に偉い幹部よ？最年少だけでも…貴女に、組織でやる

第一話：哀への手紙（後書き）

初めて書いた小説です。いかがでしょうか？

文章があまり上手くないこんな私の小説を読んでもくださり幸いです。誤字脱字を見つけた方はお知らせ下さい。

こんな小説を読んでくださる皆様。これからもよろしくお願い致します。

b

y.
☆リリー☆

第二話：コナンへの手紙

哀に手紙が届いたその日、毛利探偵事務所にもある手紙が届いた…

哀に届いた手紙と正反対に鳥のような真っ黒な封筒に、

鳩のような真っ白な文字で住所が書いてあった。

差出人は書いていない。

宛名は、江戸川コナン様…内容は…

□親愛なる工藤新一様□

シェリートイツシヨニソシキニハイルカ？ソシキニイノチサシダ
スカ？

■暗黒の組織・パンドラ■

これを見た、コナン（新一）はもちろん青ざめた…

コナンは、真っ先に阿笠博士の家に飛んで行った。

—阿笠博士宅—

コ「おーい！！博士！！灰原いるか？？」

博「哀君なら地下の自分の部屋じゃが…おい、新一！！どうしたんじゃない？慌てて！」

コ「説明は後だ！！とにかく、灰原と話してくる！！」

博「コレ！新一。分かるように説明せんか！」

コ「だから、後で説明するから！」

コナンはそう言い捨てると地下の階段へ消えていった。

コンコン

哀「・・・博士？」

コ「いや、俺だ！！灰原！！話したいことがある！！良いか？」

哀「どうぞ…」

ガチャ

哀「どうしたの？そんなに慌てて…」

コ「おい！灰原！！パンドラって知っているか？」

哀「え…」

哀（工藤君、どうして瞳の事を？）

コ「知ってるのか？暗黒の組織って黒ずくめの組織の事だろ？」

哀「ええ…そうよ。私は、パンドラの事を知っているわ…座って…話すから…」

二話終了！！

第二話：コナンへの手紙（後書き）

どうも…☆リリー☆です。

話が矛盾したりしていてすみません。。。

更新は出来るだけ早くしていくつもりですが、なんせ学生身分なので少々のご了承下さい。

次は「暗黒の組織」がサブタイトルの予定です。

☆

b y. ☆リリー

第三話：暗黒の組織

— 地下の哀の部屋 —

コ「おい！お前、パンドラって奴のこと知ってんだろ！教えろよお！」

哀「…」

コ「なんとか言えよ！」

哀がコーヒーを入れて、コナンに渡す。

哀「はい…とにかく座って…」

コ「おう。」

哀がポケットから鍵を出して自分の机の引き出しを開け、あの手紙を手を取った。

そして、哀も椅子に座った。

コ「おい！いい加減に…」

哀「パンドラってね…」

哀がコナンの言葉をさえぎった。

哀「パンドラってね、組織：暗黒の組織の幹部なの：

まあ、私も幹部だったけど：

あ、もちろんベルモット、ジンも幹部：

実は、暗黒の組織は上下関係が激しいし厳しいの：

有能だったり、ジンみたいに取引とか殺人とかなんでもすんなりやる人は上位にあがれる：

組織には、結構順位があるのよ：

まずは、末端の末端。沼斑己一郎がそれね：

だいたい身の軽さとかで殺人技術をしこむの：

末端の末端だから組織にはあまりと言うか、全然深入りしてない：

だから、警察に捕まったら組織は簡単に手を引くの：

また、殺されても組織には影響ないし：つまり、

ここにいる人たちは組織からしてみれば、使い捨て：って所かしら：

次が、末端。お姉ちゃんがそこだった。ちよつとした、取引とかをするの：

また、お姉ちゃんみたいに強奪とか：

次が中。ここからコードネームが付くの…

あなたの知っている人なら、テキーラ・カルバドス・キール・キヤンティ・コルン辺りかしら…

幹部の手伝いをしたり、取引をする。幹部の次に偉い上。

ここに、ウォッカ・ピスコ。幹部の相方にいたり、重要な取引をするの…

幹部下。幹部の中では一番下。幹部上の面倒を見たり、セキリュティーの管理…

次が幹部中。ここが、ベルモット。

そして、幹部上。ここに、私が居たわ…ジンも…そして、パンドラも。

一番上が、ボス…

私は組織の幹部の中で二番目に年少だったの。

そう、パンドラは組織の幹部の中で最年少…

そして、ボスの次に…つまり、組織で二番目に偉い子。次がジン。その次が私…

それで、パンドラって…」

三話終了!!

第三話：暗黒の組織（後書き）

・・・ほとんどが哀ちゃんのセリフです。パンドラとはいったい…
つまらない話ですが、これからどうぞよろしくお願い致します。
次は「哀とパンドラの関係」がサブタイトル予定です。

b y. ☆リリー

☆

第四話：哀とパンドラの関係

―地下の哀の部屋―

哀「パンドラって、私の…」

コ「…。私の…なんだよ」

哀「私のい、いもうとなの…」

コ「ふーん。お前の妹か…って、えええええ！妹！妹！おめえ、お姉さんの明美さんとの二人姉妹じゃなかったのかあ！」

哀「違うわ…私は三人姉妹の真ん中よ…私達姉妹は、2歳ずつ違って…16・18・20歳。お姉ちゃんの明美が20歳。私が18歳。そして、パンドラが16歳。」

コ「なあ、パンドラの本名ってなんだ？」

哀「ひとみ…宮野瞳よ…14歳の時に幹部上になった…私は、12歳で幹部上になったけど…そうね…私が幹部上になって2年目に入ってきたのよ…まだ、あの子は2年目ね…あ、私は4年目…」

コ「性格とかは？どんなコなんだ？」

哀「これは瞳が10歳で、私が幹部上になった時の写真…」

スナップ写真を差し出す。

哀「四人写っているでしょ？真ん中が私、右がお姉ちゃん、そして左が瞳。あと、私の肩に手を伸して立っているのがジン：」

写真には、今の哀がもう少し大きくなった感じで真っ赤な膝丈ワンピースに白衣のような物を

着て赤みがかった茶髪の少女が正面に（12歳の時の宮野志保）いた。その少女の右横に、真っ黒なロングヘヤーで少女に向かって微笑んでいる、中学生ぐらいの女の子（14歳の時の宮野明美）がいた。そして、茶髪の少女の左横に、無邪気にかメラにむかってピースしている茶髪でポニーテールをしている小学校中学年ぐらいの女の子がいた。彼女が、10歳のパンドラこと宮野瞳だろう：

そして、志保の肩に手を置いている高校生ぐらいの男の子（18歳の時のジン）は無表情だったがどこか暖かい眼差しで志保たち姉妹を見ていた。

コ「コイツ：ジンか？」

哀「ええ：」

哀は懐かしそうに目を細めて写真を眺めた。

コ「なんか違うな：」

哀「え：？」

コ「ジンといい、お前といい雰囲気がちがう：」

哀「・・・どういこと？」

コ「ジンの目に冷酷さが無い：オメエもすごいリラックスしてる感

じだ…」

哀「そうかもしれないわね…」

コ「この後の2、3年で冷酷な殺人鬼になるとはとてもじゃないけど、思えないよ…」

哀「ジンも私も瞳も結局は人殺しだもの…」

四話終了!!

第四話：哀とパンドラの関係（後書き）

更新が遅くなりすみませんでした。

先日、体育祭があつて部活が忙しく、PCを開かずに寝る日もたびたびありました。

これから先も、なにかと更新が遅れると思います。

そういう時は、気長に待っていてください。

よろしく願います。

・・・さて、今回は中途半端な話です。

パンドラの正体は分かったものの：

次のサブタイトルの予定は『哀とジンの関係』です。

b y. ☆リリー☆

第五話：哀とジンの関係

―地下の哀の部屋―

哀「留学から帰って来た私とジンは組織の規則で、コードネームがもらえる中になった：あ、組織の規則は留学に行った人は、留学から帰って来た次の日から無条件でコードネームが貰えるの：そして、中に入るの：だから、私はシェリー、・・・はジンってコードネームを貰ったの：」

コ「ジンの本名って？」

哀「それは教えられないわ：ごめんなさい：そういえば、それまではジンも私の事を『志保』って呼んでくれたけど、コードネームが付いてからは私の事を名前で呼んでくれたのは、お姉ちゃん」と瞳だけだった：『志保』『志保お姉ちゃん』：」

コ「：」

哀「それで：」

博「おーい！新一！哀君！ご飯じゃよおー！！」

コ「お！！もうそんな時間か？」

哀は時計を見た。針はPM7..10を指していた。

哀「ええ：もう、七時過ぎね：」

コ「マジ！？話し始めたのは5..30ぐらいだろ？」

哀「ええ：なんか、私の過去の話ばかりしてごめんなさいね：」

コ「別に良いぜ：おい、早く行こうぜ、し、志保：（／／／／）」

哀「え：今、私の事を：」

コ「おい！志保！お前、オレの事『工藤君』って呼んでくれるからオレもお前の事を『志保』って呼ぶぜ。良いか？」

哀「べっに、いいわよ：（／／／／）」

コ「良かった！んじゃあ、オレは帰るから！！明日から学校だぜ！

！頑張ろうな！まあ、頑張ることなんかねーけど…」

哀「ええ…」

コ「またな、志保！！」

哀「ええ…また明日…工藤君」

コ「おい博士！邪魔したな」

博「こ、これ！新一、ご飯食べて行ったらどうじゃ？」

コ「サンキュー、博士！でも、今日は帰る。蘭に夕飯までには帰って来いって言われたからな・・・」

博「蘭君によろしく言つていてくれ！」

コ「わあったよ！んじゃあな」

明日、平和な小学校で二人を巻き込む大騒動が起これとは、この時哀もコナンも予想してなかった…

第五話：哀とジンの関係（後書き）

すみません！

長い間投稿できなくて・・・

文化祭、期末テストいろいろ忙しくて・・・

ほんとにすみません！！！！！！

これからも、遅れることがたびたびあると思います。

あしからず（＊ノー＞＊）

b y. ☆リリー☆

第六話：転校生

長いゴールデンウィークが終わり今日から帝丹小学校が又、賑やかになって来た。今年のゴールデンウィークは帝丹小学校の創立記念日もあって、6日間もの休みがあった。

♪キーコンカーコン♪

―一年B組―

コ「おはよう^^」

歩「あ！コナンくん！！おはよう！（／／／／／）」

コ「なんだあ？やけに騒がしいな。」

哀「ええ…どうしたのかしら？」

歩「今日ね、転校生来るんだ^^」

コ「ふん」

歩「転校生なんて哀ちゃんの時以来よね」

コ（同じ事を…）

ガラ！

小「今日から皆さんと一緒に勉強する『灰原 恵美』さんです」

哀・コ「え！？」

歩「灰原さんって哀ちゃんの親戚？」

小「そうらしいわ。」

恵「双子よ」

児「え、ええ〜！？」

哀「ありえないわ！？」

コ「そうだ！！灰原は一人っ子だぜ！」

小「良いわvとにかく、座って！」

恵「ハイ…」

哀・コ（！？）

―授業終了後―

哀「ねえ、ちょっと良い？」

恵「良いけど…」

―裏庭―

哀「貴女は誰なの？」

恵「お姉ちゃん…」

コ「…灰原に似てるけど…」

哀「工藤君この子、私の実の妹…」

コ「え…って事は…」

哀「ええ…この子の本名は…宮野瞳。コードネーム、パンドラ！」

コ「!?!?ば、パンドラ?!?!」

哀「ええ…でも、どうして瞳が?？」

恵「分からない…お姉ちゃんが作ったAPTX4869を飲んだの…そしたら、体が縮んで…」

哀「瞳!! どうして、APTX4869を飲んだりしたの? あれは毒薬なのよ? 貴女だって分かっているはずでしょ!」

恵「分かっているわ…そんなこと…でも、組織は血眼になって私の事を探しているわ…私は、お姉ちゃんと一緒。組織を裏切った組織の裏切り者…」

哀「組織を裏切った?」

恵「ええ…だって、ベルモットとウォッカが幹部上にあがって来たんだけど、ジンとベルモットとウォッカが三人で話してたの…お姉ちゃんたちの事…」

哀「私やお姉ちゃんの事?」

恵「ええ。私は昨日の夜逃げ出したんだけど、昨日の夕方三人がしてた話を聞いちゃって…その話ってね、こんな内容だったの…」

―暗黒の組織のアジトのバー（恵美が逃げ出した日の夕方）―

ベルモットはシルバールブレット、ウォッカはドライマティーニ、ジ

ンがシェリー酒を飲んで話していた。

ベ「あら、ジン、それシェリー酒？」

ジ「見ればわかるだろ…」

ウ「そう言う姐さんは、シルバースレットですかい？」

ベ「ええ、そうよ♪」

ジ「くだらねー。」

ベ「あら♪シルバースレットで愛しい愛しい宿敵^{コイビト}さんの赤井秀一の事を思い出したのかしら？」

ジ「別に…」

ベ（私の愛しいシルバースレットこと江戸川コナン、工藤新一君。

あなたとシェリーは、私達の事を探しているのかしら？）

ジ「ところで、シェリーはどうなったんだ？」

ベ「A secret makes a woman woman」

ジ「ふ…しかし、気になるな…あの杯戸シティホテルの事件のあの女を連れ出した男の顔がな…」

ベ「…」

ウ「姐さん、なんか知ってるんすか？」

ベ「ええ、まあね」

ジ「おい！出来損ないの名探偵どうなった？」

ベ「シェリーがぬけたからそのままよ…」

ウ「どうするんですかい？」

ジ「シェリーを見つけたら即刻連れ戻して薬の研究を進めさせる！」

ウ「見つからなかったら…？」

ジ「大体検討は着いてる…いざとなったらパンドラをおとりにするまでだ…」

ウ「パンドラって…シェリーの妹の…？」

ジ「ああ…アイツは妹思いのヤツだったからな…」

瞳「・・・というわけなの：そのまま組織にいと捕まりそうで、お姉ちゃんが開発したAPTX4869を飲んだの：」

瞳は哀と目を合わせないように俯いた。

コ・哀「……………」

哀「瞳、ごめんね：」

恵「お姉ちゃん：」

♪キーコンーカーコン♪

歩「ねえねえ、灰原さんも一緒に少年探偵団やろ！」

恵「お姉ちゃんや江戸川君も入ってるの？」

光「もちろん、コナン君や灰原さんも入ってますよ！」

元「やろうぜ！！」

恵「どうしたら良い？お姉ちゃん（ひそひそ声）」

哀「やっと来なさい。暇つぶしにはなるわよ（ひそひそ声）」

恵「分かったわ（ひそひそ声）良いわよ：」

光「やりました！コナン君！元太君！歩美ちゃん！灰原さん！灰原さん！」

元「ややこしいぜ！」

哀「そうね：呼び方どうする？恵美」

光「ここは、僕たちも哀ちゃん、恵美ちゃんと呼びましょうか！」

元「おお！いいな！」

哀・恵「だ・め！！」

光「そ、そんなあゝ男女差別ですうゝ」

哀「ダメなものはダメ！！」

コ「なら、どうするんだ？」

恵「下の名前で良いんじゃない？」

哀「じゃあ、私の呼び名はそのまま、吉田さんは『哀ちゃん』円谷君は『灰原さん』小嶋君は『灰原』江戸川君は『哀』。恵美の呼び名は、吉田さんは『恵美ちゃん』円谷君は『恵美さ』

ん』小嶋君が『恵美』江戸川君が『恵美』で良いんじゃない？」

恵「良いわよ…」

コ「んじゃあ、決まりだ！」

この時…米花町五丁目『毛利探偵事務所』に危険が近づいている事には誰一人気がついていなかった…

第六話：転校生（後書き）

更新が遅くなりました（汗）
すみませんでした。

今後遅くなると思いますがよろしく願います：
☆リリー☆

b
y,

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9531a/>

暗黒の組織VSコナン&哀

2010年10月24日05時28分発行